

# 自主学習ノートによる自ら学ぶ力の育成に関する研究 — 思考や認知過程の内化・内省・外化をうながす教師の働きかけを中心にして —

On the Study Improvement of Students Self-Directed Abilities by Using Self-Study Notebooks:  
Mainly Through Teachers' Promotion for Students' Internalization, Introspection and Externalization of Their  
Thought and Cognitive Process

芦澤 稔也\* 仙洞田 篤男\*\* 堀 哲夫\*\*\*  
ASHIZAWA Toshiya SENDODA Tokuo HORI Tetsuo

要約：子どもの学習習慣や家庭学習が、教師の教育力や指導力と深い関係があることは疑う余地のないことである。しかし、このことについて十分に研究されてきているとは言い難い。

今回、自ら学ぶ力の育成について自主学習ノートへの取り組みを通じた実践を小学校において行った。そこでは、自主学習ノートへ取り組む上で記録内容の明確化など5点の方法を重視することにより、自ら学ぶ力の育成が図られるかどうかを検証した。その結果、児童の自主学習ノートは日々明確に変化していった。具体的には、認知過程の内化・内省・外化がスパイラル的に行われていることが読み取れるノートや、+αの学習にまで取り組もうとする児童の姿、等が見られた。

さらにOPPシートへの記入によって、授業に臨む態度に変容がみられたり、見通しを持ったり振り返ったりする学習活動が行われたりしていたことがわかった。こうした活動により、自主学習ノートへの取り組みを通して、自ら学ぶ力の育成は可能であることが明らかになった。

キーワード：自主学習ノート、記録内容の明確化、OPPシート、内化・内省・外化

## I. はじめに

「やらされているうちは成長しないよ」二者面談や部活動において、教師がよく生徒に言うセリフである。スポーツにおいても勉強においても、自ら前向きに課題をとらえ練習(勉強)していかないと真の実力はついていけないことを示す言葉である。それでは、我々教師は生徒が前向きに・意欲的に課題に取り組めるような指導をしているのだろうか。

学習指導要領改訂のポイントとして「学習意欲の向上や学習習慣の確立」「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視」<sup>1)</sup>が謳われている。しかし、全国学力・学習状況調査の「学習意欲・習慣」に関する調査項目に目を向けると、図1のように山梨県は他県に比べそれが非常に低いという結果が出ているのが現状である。

平成22年度全国学力・学習状況調査(中3)													
順位	秋田			岩手			山梨			山梨			
	得点	偏差値	順位	得点	偏差値	順位	得点	偏差値	順位	得点	偏差値	順位	
1	50.0	76.7	1	48.0	75.1	1	54.0	72.5	1	54.0	72.5	1	
2	47.6	68.5	2	45.3	64.9	2	53.0	72.5	2	53.0	72.5	2	
3	47.0	66.4	3	45.3	64.9	3	52.3	70.1	3	52.3	70.1	3	
4	46.8	65.7	4	44.7	64.2	4	51.6	69.1	4	51.6	69.1	4	
5	46.0	63.0	5	41.0	59.6	5	47.9	63.7	5	47.9	63.7	5	
山梨25位			42.2	49.9	山梨29位	32.1	48.4	山梨39位	32.7	41.3	山梨38位	52.8	40.5
43	38.8	38.4	43	20.8	34.3	43	29.6	36.7	43	50.9	38.1	43	
44	38.4	37.0	44	20.6	34.0	44	29.2	36.1	44	50.5	37.5	44	
45	38.1	36.0	45	19.0	32.0	45	28.2	34.7	45	49.0	35.6	45	
46	36.7	31.2	46	17.3	29.9	46	27.9	34.2	46	48.8	35.4	46	
47	36.1	29.7	47	16.8	26.8	47	26.5	32.7	47	47.6	33.8	47	

図1 学習意欲・習慣に関する全国学力・学習状況調査の結果

\* 富士川町立増穂中学校・教育実践創成専攻大学院生  
\*\* 教育実践創成専攻客員教授 \*\*\* 教育実践創成講座

自ら学ぶ力<sup>2)</sup>は、中学校でも満足に育成されているとは必ずしも言えない。それでは、小学校においてはどうなのか、その実態を小学校における自主学習ノートへの取り組みを通して探ってみたいと考えた。

## II. 研究の目的

本研究の目的は、自主学習ノートを作成させることにより自ら学ぶ力の育成を図ることである。

## III. 研究の方法

研究の対象、期間、方法については以下のとおりである。

### 1. 調査対象 富士川町立A小学校5年B組38名

### 2. 調査期間 平成23年5月9日～平成24年3月31日

### 3. 調査方法

自ら学ぶ力の育成をめざした実践として、児童全員に自主学習ノートを作成させた。自主学習ノートは、学校の活動を終えて家庭に帰った児童が、その日の授業を振り返り、学習した内容をまとめたものである。それに取り組むことにより自ら学ぶ力の育成を図った。そのとき、とりわけ重視したのは以下の5点の方法である。

#### (1) 長期間継続して取り組める働きかけ

児童が家庭において、一人で行う復習に負担がかかりすぎては長続きがしない。そこで、自主学習ノートに取り組む日を週三日（月・水・金曜日）に限定した。

#### (2) 記録内容の明確化

通常行われている自主学習ノートは、何をどのように書いても構わないとされることが多い。今回の自主学習ノートへの記録は、その日に行われた各授業の最重要事項のみに絞った。その理由は、自ら学ぶ力の大きな要素の一つは、要点を自ら考えまとめることにあると考えたからである。また、復習の時間の効率を上げることもねらっている。一番大切だと思うことを児童が自分で考えてまとめることは、新指導要録で例示されたパフォーマンス評価にあたる<sup>3)</sup>。

#### (3) 思考や認知過程の内化・内省・外化をうながす働きかけ

児童が記録した内容をさらに良くするためには、教師の働きかけが必要不可欠であると考え、必ずコメントを加えた。つまり、児童が記録した内容に対して教師が適切なコメントを与えることにより、その情報を児童が取り入れ（内化）、いろいろと思いをめぐらす内省を促し、次の記録である外化につなげていくという働きかけである。なお、思考や認知過程の内化・内省・外化については、後述の図9を参照されたい。

#### (4) 自己の変容に対する自己評価

1冊のノートが終了した児童には、図2に示したOPP(One Page Portfolio)シート<sup>4)</sup>を使い、自主学習ノートに取り組む始めと終わりの変容を意識化させるため、自己評価をさせた。こうした自己評価は、自分の実態を適切に把握し次の見通しをもって学習を進める、言い換えると自ら学ぶ力の育成に不可欠と考えられるからである。

#### (5) 自主学習ノートに対する保護者の評価

家庭との連携を図ることを目的に、OPPシートに加え自主学習ノートに対する「振り返り

シート」を保護者に記入してもらい、他者評価とした。それは、児童が学校で毎日何を学び、自ら学ぶ力を育成するために教師がどのような働きかけを行っているのかを具体的に理解してもらうために重要な契機となると考えているからである。

お家の人に、思ったこと・感じたこと・キミへの激励など何でもかまわないので、自由に書いてもらおう。

最初は、時間割しか書けなかったノートも、<sup>いじ</sup>徐々にやった内容から、重要なポイントが書ける様になり、一月まとめが出来る様になりました。とても素晴らしい事だと思います。一月を振り返る事に、もう一度復習が出来て、それがもと自分のものになります。自主学習の事はとても、素晴らしい事だと思いますが、毎日の積み重ねで、必ず成果が出て来ると思います。これから少しずつ書いていって、続けられる様がんばって欲しいです。 カンパレー! カエリ。

軌跡ノートに取り組んでみて、思ったこと・感じたこと・感想でもかまわないので、自由に書こう。

ガッツに!  
自分!

5年3組名前 ( )

図 2-1 使用したOPPシートと記入例表面 (N. T.; 男児)

ノートのはじめ

10月 (金)

算数

国語

100年後の地球を作る

社会 テスト

音楽 (クラシック)

音楽集の練習

6:30 体育 てつぽうテスト

今日の授業

1-31: 歩幅を測り、おたりの長さを取り出した。

①自分の歩幅は(10歩)  
(1)6m72cm (2)7m36cm (3)7m67cm  
平均式  $(672cm + 736cm + 767cm) \div 3 = 741$

平均 741cm  
7m41cm

平均  $741 \div 10 = 74$   
74cm (1歩)

ノートの終わり

②わたり30下の長さ歩幅ははははは55  
34歩  
 $74 \times 34 = 2516$

2516cm  
↓  
25m16cm

24m70cmとした。

2-31: 歩幅を測り、おたりの長さを取り出した。

3-31: 歩幅を測り、おたりの長さを取り出した。

4-31: ミニの歩幅を測り、おたりの長さを取り出した。

自分が学習した軌跡ノートの一番最初のページと、最後のページをふりかえってみて、何がわかりましたか？ また、何が変わりましたか？それはどうして変わったのですか？思ったこと・感じたこと何でもかまわないので、自由に書いてください。

さいしは、思ったことしか書いてはなかったけど先生のコメントをみて、少しずつできるようになるようになっていきました。な、よさかきと、1週間前、自分でノートを作っていることを、みんなにはなしを聞いて、おたりの長さをはかるときは、みんなも一緒にやりました。

図 2-2 使用したOPPシートと記入例裏面 (E. R.; 女児)

上記以外に自主学习ノート導入以降、教師が適宜必要な働きかけを行った。その具体的内容と過程を示せば、図3のようになる。

図3から明らかなように自主学习ノートを6月に始め、ノートの題名決定、記録するための十か条の作成と確認と続き、12月にはノートの振り返りと変容の確認を行った。12月に行った変容に対する意識化はOPPシートを使った。



図3 自主学习ノート1年の流れと働きかけ

## IV. 研究の結果と考察

### 1. 長期間継続して取り組めるための働きかけ

内容・方法に多少の違いはあれ、多くの中学校教師が「自主学习ノート」に取り組んでいる。しかし、その実態は意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒に二極分化している。長期間継続のための教師の働きかけとして、有用感や充実感を刺激する内発的動機づけと、児童のやる気を高める外発的動機づけを行った。

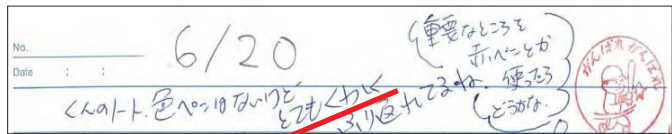


図4-1 肯定的評価のコメント

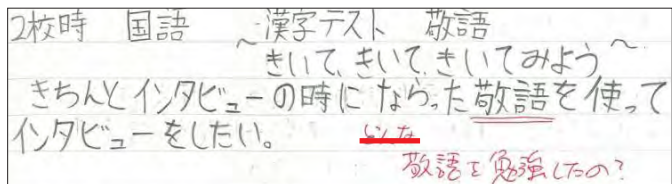


図4-2 「三文字」返事のコメント例

#### (1) 内発的動機づけとしての働きかけ

##### ① ノートへの日々のコメント

短時間でチェックし終えるようポイントを絞り簡潔に、児童の内省をうまく機能させるコメントを書く。外化された児童のノートを見ながら、フィードバックする。これにより、児童は自らの考え方ややり方を再吟味し、工夫・改善する(図4参照)。

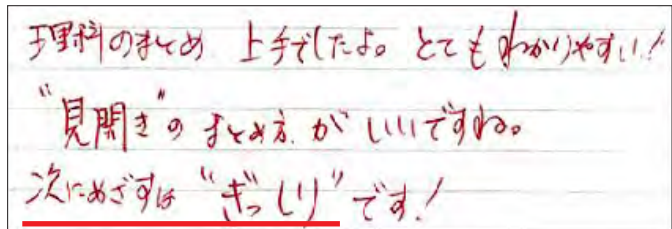


図4-3 次の内省につなげるアドバイスのコメント

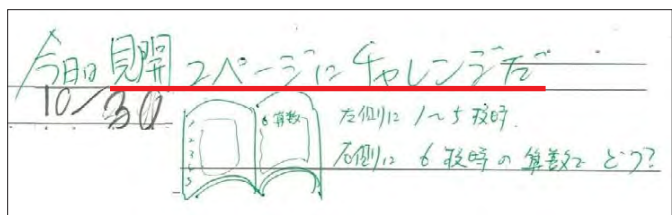


図4-4 次の内省につなげるアドバイスのコメント

②見本例の掲示と担任のメッセージ

担任の気づきやメッセージを教室の後ろの黒板に書いた。開始当初は、仲間との比較検討やよい書き方をしているノートを真似ることを目的にして、児童の見本になるノートのコピーを貼った。そういう積み重ねの中で、徐々に一人ひとりのオリジナルなノートが作成されていった(図5参照)。

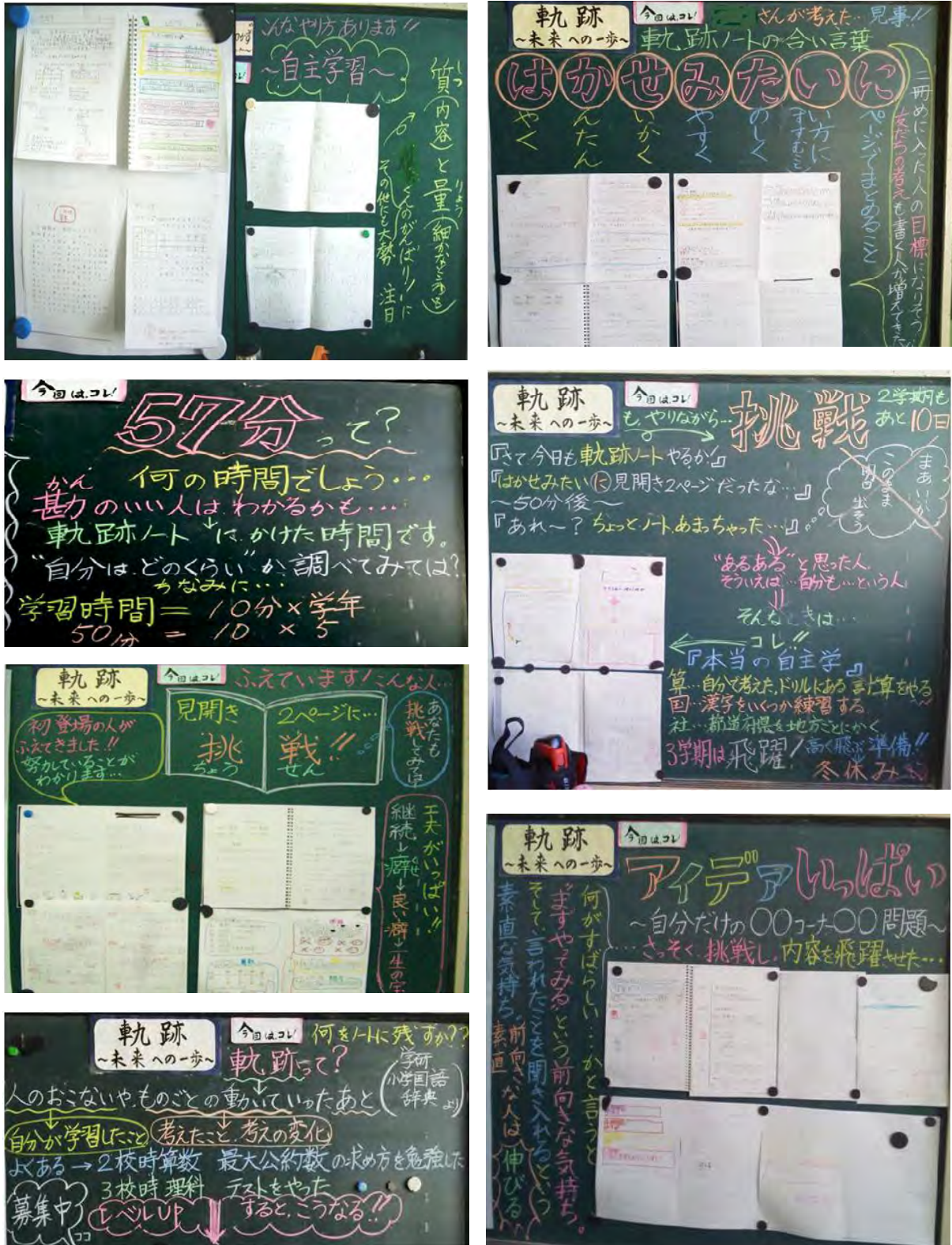


図5 見本例の掲示と担任のメッセージ(教室の後ろにある黒板)

(2) 外発的動機づけとしての働きかけ

① 自主学習ノートの名前募集

児童から自主学習ノートの呼び名を募集することによって、ノートが「軌跡ノート～未来への一歩～」(以下自主学習ノートを軌跡ノートと記す)と命名された。学習に関する取り組みはともすると、いつでも教師からの押しつけになってしまいがちである。そのため、児童が主体的に取り組めるような配慮が様々な場面で必要であると考えられたからである。

このたび取り組んだ一連の活動は、教師の投げかけで始まったことであるが、児童たちで命名したことは「自分たちの活動(やらされている活動からの脱却)」へと移行していく一助となっている(図6参照)。

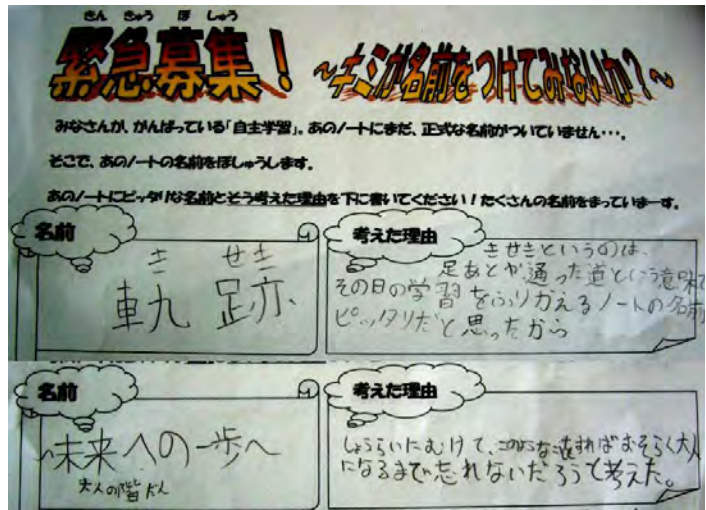


図6 自主学習ノートの名前募集

② ノートを1冊終了した児童への賞状

軌跡ノートの一冊終了時に、児童に賞状(図7)を渡すようにした。一人目の受賞者ができると「僕も、私も…」と軌跡ノートに対する意欲は一時的に大きく増し、クラス全体も頑張ろうとする雰囲気包まれるなど、意欲喚起には大変役に立った。やはり、軌跡ノートは継続してこそ価値が高まるので、そのためには外発的動機づけも重要である。しかし、賞状欲しさにとにかくページ数を増やすという児童への配慮が必要であることがわかった。つまり、記録の量ではなく、質を高めるための働きかけの必要性である。

③ 係活動の後押し

日々の提出状況チェックや、未提出者への呼びかけなどは、係の児童を中心に行った。それは学習に対する取り組みが、どうしても「やらされている感」から脱却し得ず、自ら学ぶ力の育成に何ら貢献していないのが現状だからである。これは軌跡ノートへの取り組みが自分たちの活動であり、自分自身の学習内容に関する理解を深めるための活動であることを認識させることに一役買っている。



図7 ノート1冊終了児童への賞状

## 2. 記録内容の明確化

自主学习ノートは通常「何をどのように勉強してもよい」とされるため、ただスペースを埋めるためだけの単語練習や漢字練習・計算練習になってしまうことが多く、日々の授業とどうしても乖離してしまう傾向にある。そのため記録内容を明確化し、授業の最重要事項のみに絞った。それは、自ら学ぶ力の育成には重要事項が何かを考え要領よくまとめる力が基礎となると考えたからである。

記録内容を明確化することにより、日々の授業と家庭での学習をつなげるだけでなく、前日の自主学习と今日の自主学习、そして明日の自主学习とをつなげることも可能にしていた。

さらに、軌跡ノート開始当初や長期休み明けの各学期スタート時には、ルール（軌跡ノート～十か条～）の確認とそれまでのいくつかのノートを紹介し、ノートの内容を質的に高める働きかけをも行った（図8参照）。

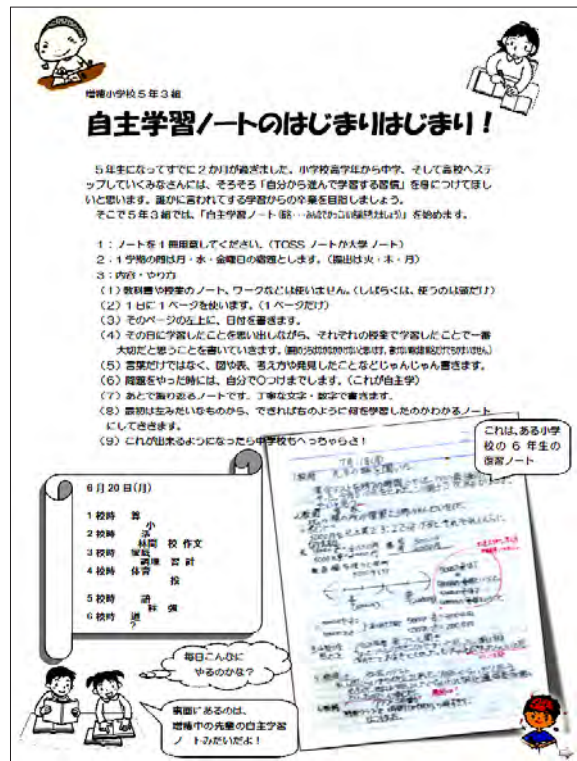


図8-1 自主学习ノート作成の十か条（年度当初）

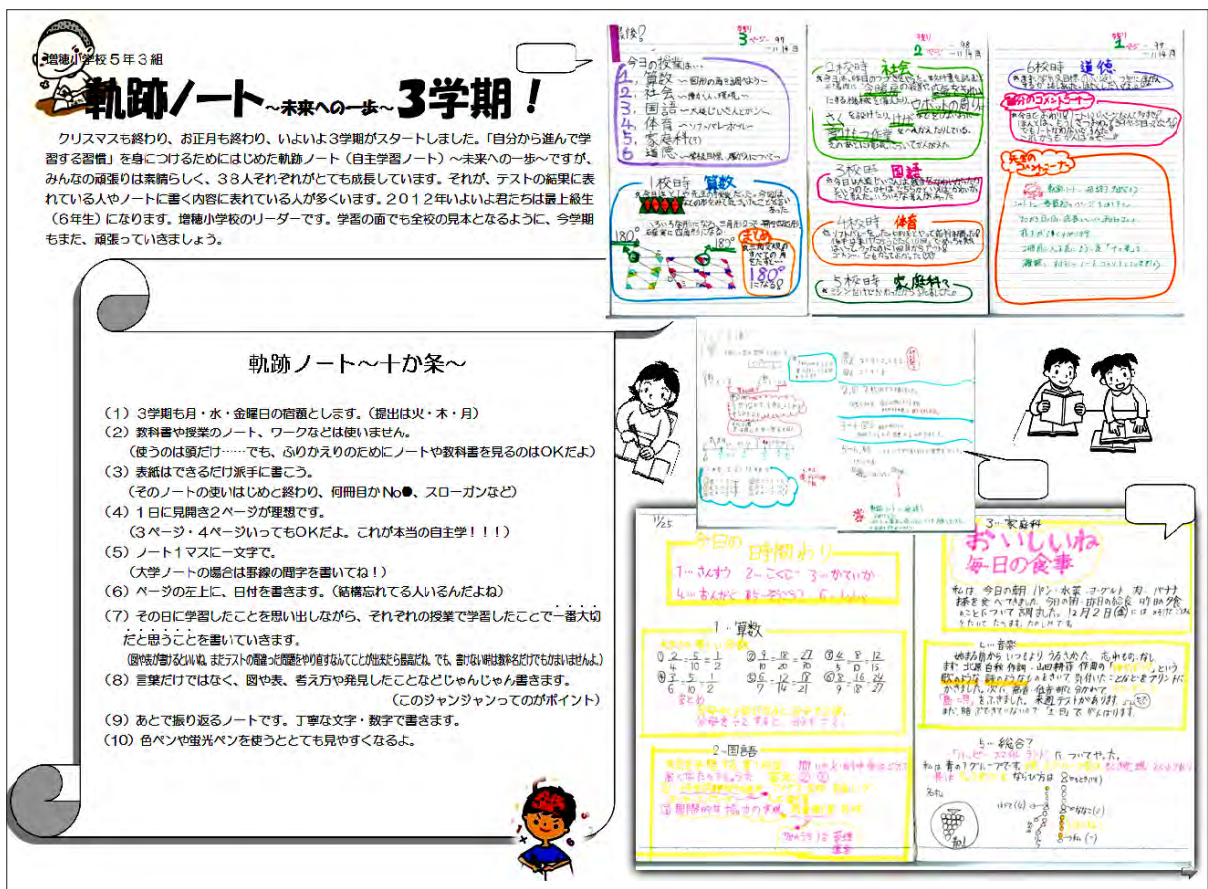


図8-2 自主学习ノート作成の十か条（3学期始め）

### 3. 思考や認知過程の内化・内省・外化をうながす働きかけ

児童が、自主学習ノートに取り組むことで、その日の学習内容を振り返り（内化）⇒自分を見つめ熟考し（内省）⇒ノートに記録し（外化）⇒次時（明日）への見通し・目標を持ち⇒何が必要かに気づき⇒次の日の授業⇒という図9に示される思考や認知過程の内化・内省・外化<sup>5)</sup>をスパイラル的に行うことにした。

こうした働きかけは、児童自身が自分の変容を意識化し、自ら学ぶ力を育成するためにきわめて重要であると考えられる。

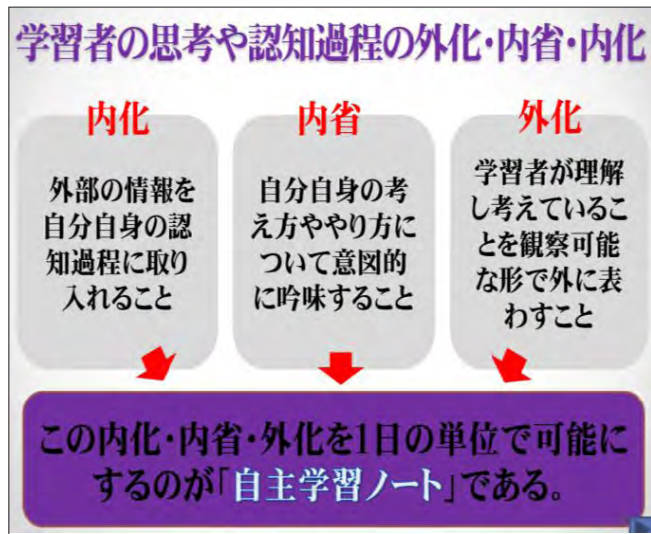


図9 学習者の思考や認知過程の内化・内省・外化

#### (1) 最初は教科名しか書けなかった児童の変容

##### ①教科名しか書けなかったが、見開き2ページのノートに変容した児童（図10参照）

図10に示した児童は、軌跡ノート初日は教科名しか書けなかった児童（CRT検査31位/38人中）である。日々の教師のコメントを生かし、内化・内省・外化がスパイラル的に行われノート1冊終了時には見開き2ページの自主学習が行われるようになってきた。

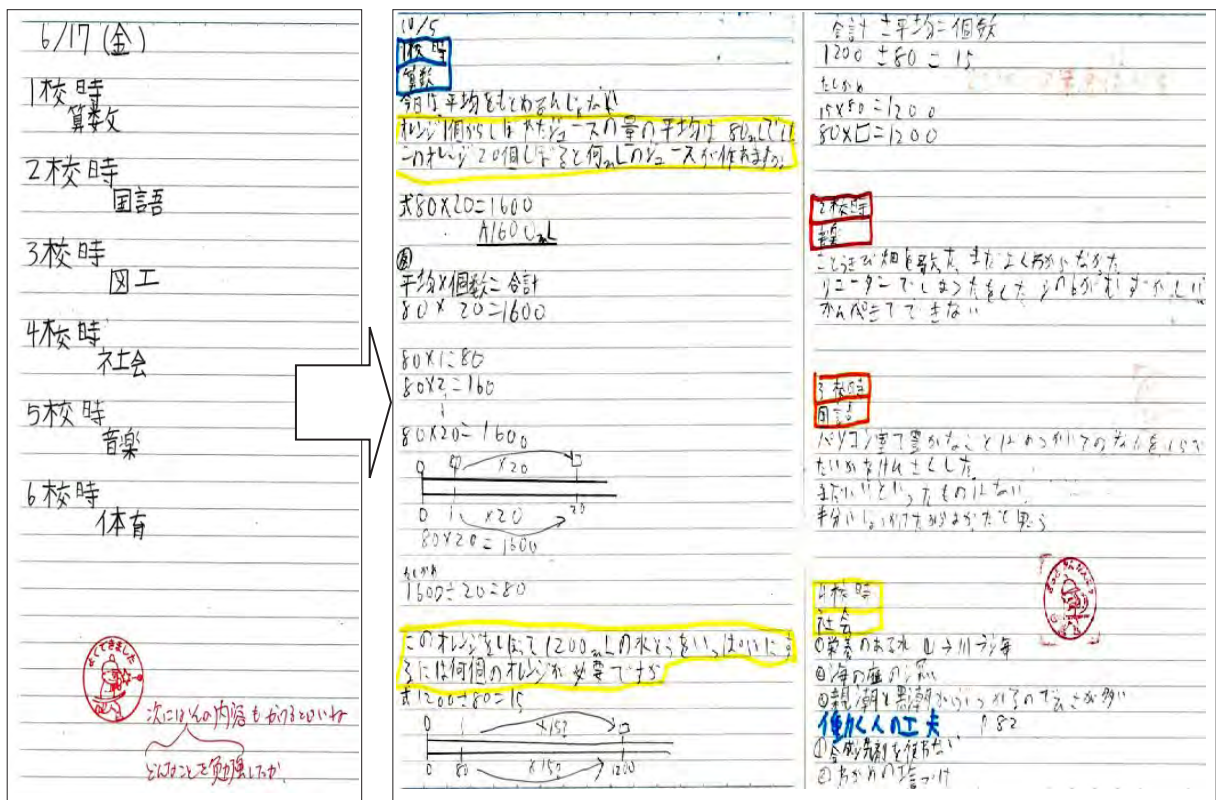


図10 最初は教科名しか書けなかった児童の変容（S. T. ; 男児）

##### ②ある日をきっかけに格段の進歩を遂げ、単元まとめのテストにもその成果が表れた児童

（図11参照）



図 11 の児童は、軌跡ノート開始時から 1 ページに授業内容が簡単に書かれたノートが続き、大きな変化が見られなかった児童である。しかし、担任と母親との「漢字ノート」に関するやりとりをきっかけとし、次の日から見違えるようなノートの記録が展開されるようになった。この変容が見られた直後に、筆者が算数一単元を授業研究したのであるが、その単元のプレテストで 35 位 / 38 人中だったこの児童は、単元終了時のまとめテストにおいて、16 位 / 38 人中まで順位を伸ばしている。軌跡ノートの取り組みとその変容が、テストの結果にも表れている例である。

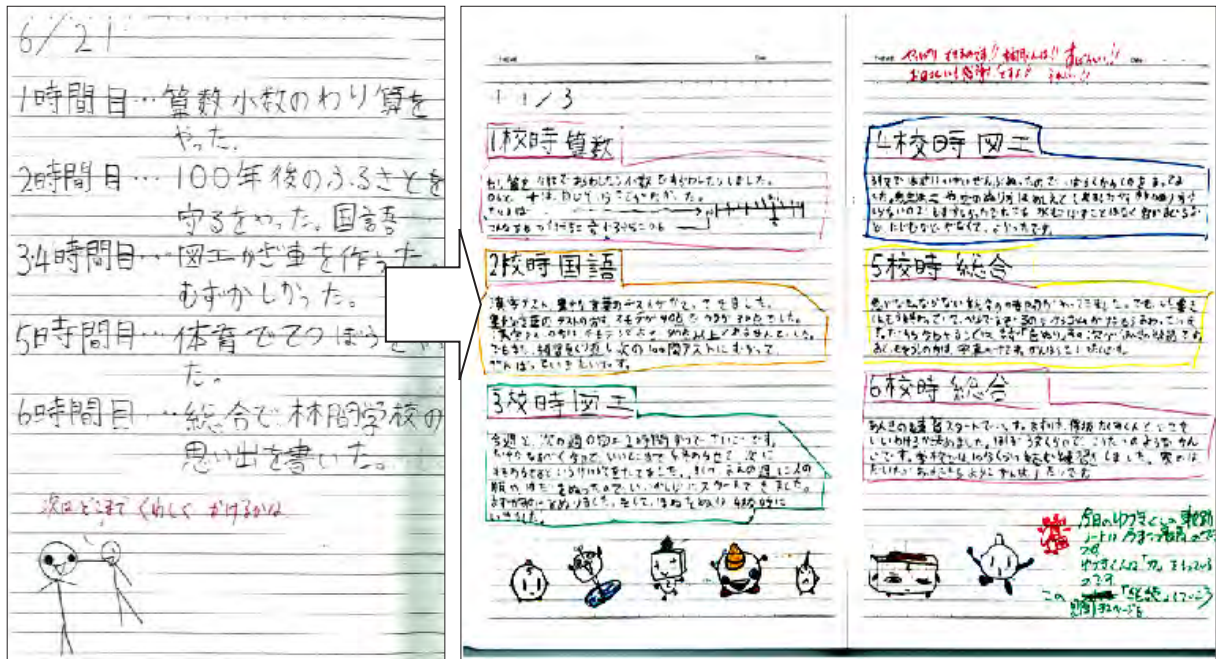


図 11 ある日をきっかけに変容した児童 (K. Y.; 男児)

(2) 児童のノートに見られる工夫点

① 吹きだしやイラストを使って見やすく・わかりやすく工夫しているノート (図 12 参照)

自分自身を高次な視点から見つめ (メタ認知), 吹きだし等を使って自分自身に語りかけている。ここで言う高次な視点から見つめるといのは、自分を客観的な立場から見つめ、吹きだし等を使って表現しているということである。

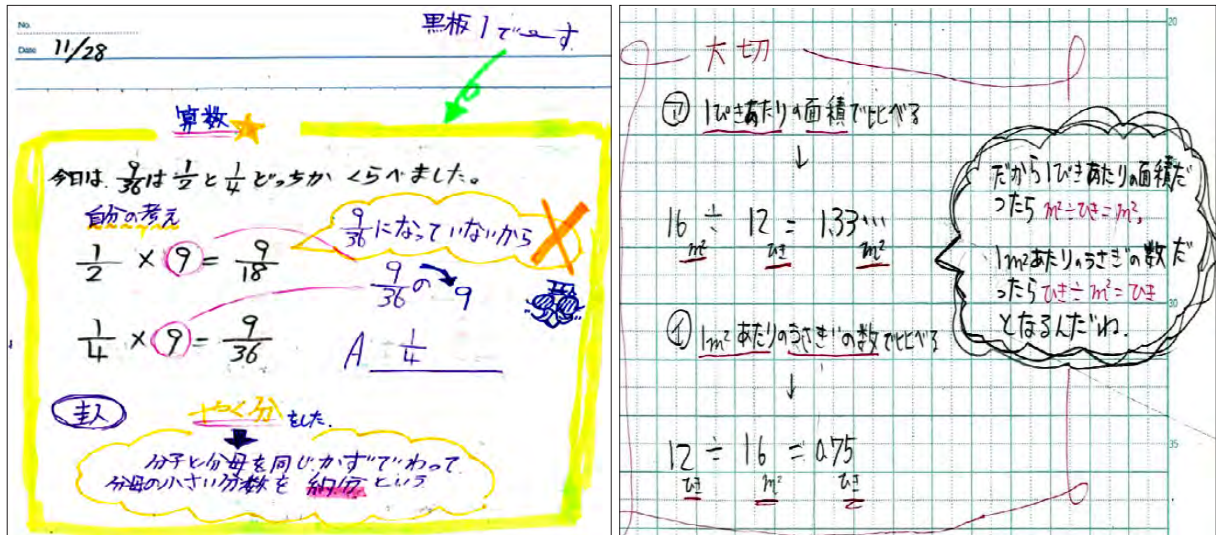


図 12 吹きだしやキャラクターを登場させ見やすく・わかりやすく工夫 (S. M.; 女児, F. H.; 女児)

②今日の授業だけでなく単元全体を振り返っているノート（図13参照）

「今日の授業で一番大切だったことは何ですか」ということが軌跡ノートの大前提であるが、継続していく過程で、単元終了時にその単元全体を振り返るようなノートが出てくる。これは、日々の内化・内省・外化がスパイラル的に行われた結果、単元全体を通しての内化・内省が行われ、外化されたノートの例である。下の例は、算数の一つの単元を振り返って、どうすれば多角形の角の大きさの和が求められるのかをまとめたものである。

単に一回の授業の大切なことだけでなく、単元全体を通してポイントを押さえることができているのは、内化・内省・外化が教師の働きかけにより適切に機能したからだと考えられる。

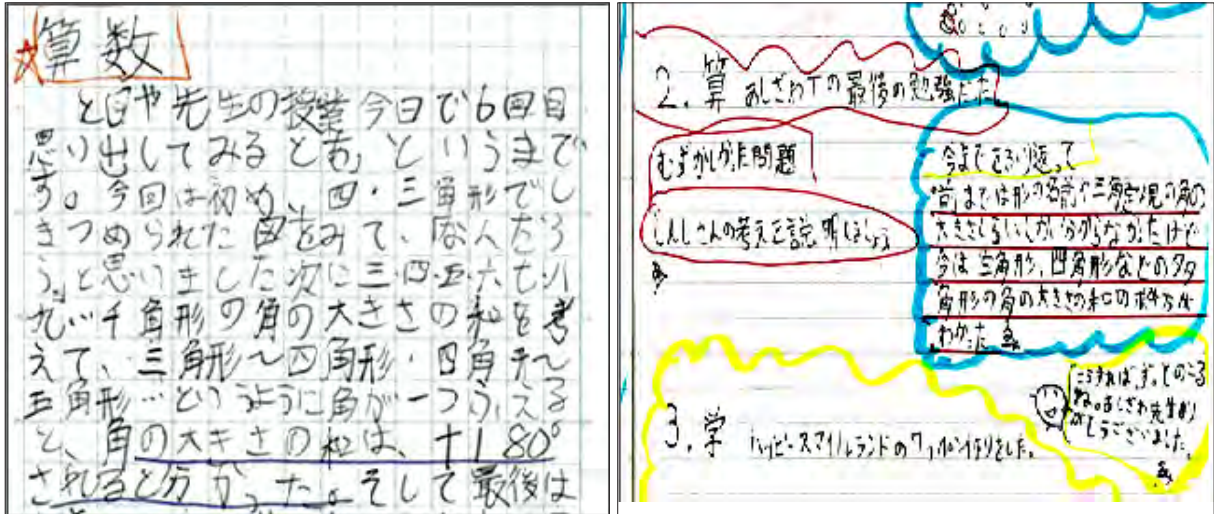


図13 今日の授業だけでなく単元全体を振り返っているノート（A. G. ; 男児, K. K. ; 男児）

③表紙を工夫したり、自分自身の目標を裏表紙に書いたりしているノート（図14参照）

ノートとの出会いを大切にしたい。自主学习は、家で行うことが中心となるため、最初の意欲付けが大切だと考えた。そのため賞状や命名といった外発的動機づけとしての働きかけを行ったが、その一番最初には自分のノートとの出会いである。まず一文字一文字心をこめて自分の名前を、そしてそのノートの使い始めの日付を書かせた。「軌跡ノート」と命名後、自分に対するメッセージや大切なこと必要なことを書いてもいいよということ伝えておいた。

図14は、表紙と裏表紙を工夫しているノートの例である。このようにすることを通して、ノートへの愛着も深まってくると考えられる。

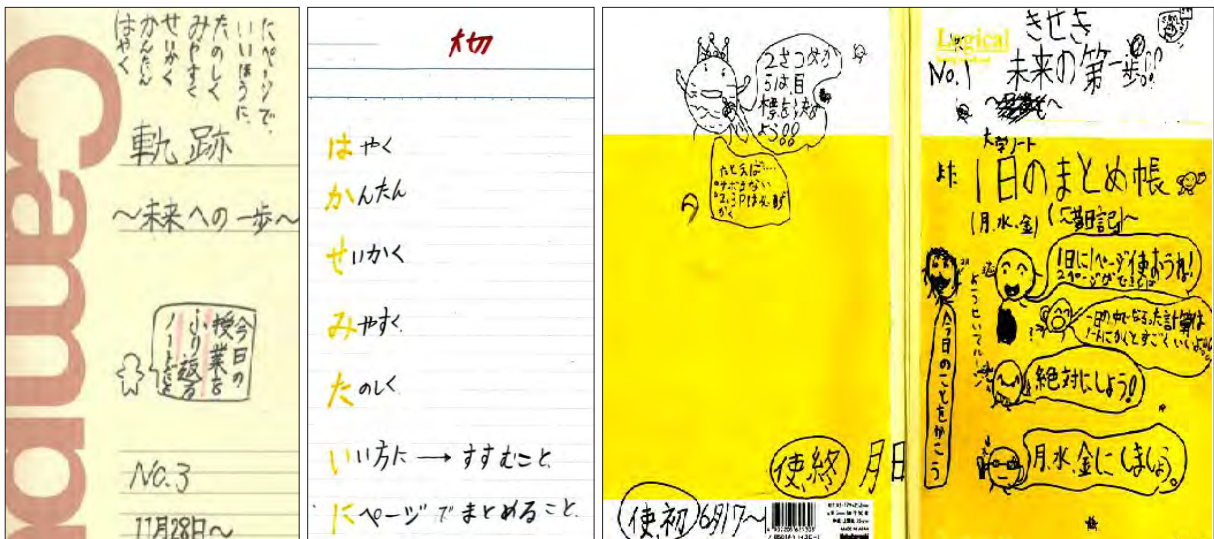


図14 表紙や裏表紙を工夫しているノート（K. A. ; 女児, F. H. ; 女児, K. K. ; 男児）

④間違えた問題をやり直すノート

当初は、授業で単元テストや小テストを行うと、児童の軌跡ノートには「今日は算数のテストをしました。難しかったです。」「今日は漢字のテストをしました。〇間違えました」といった表現が見られた。そういった場合「何が難しかったの?」「どんな間違いをしたの?」といった「問いかけ」を繰り返すことによって、児童のノートは図 15 のように変容してくる。つまり、自分の間違えたところを自分で気づき、それを的確に指摘できているのである。

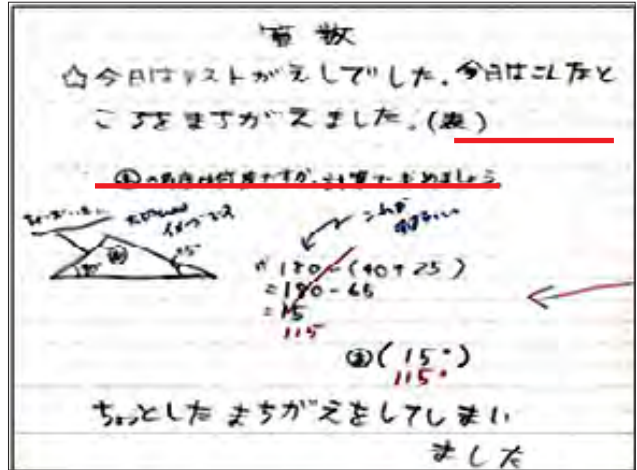


図 15 間違えた問題をやり直すノート (S. M.; 女児)

こうしたことが可能になると、自ら学ぶ力につながる基礎が培われてきていると考えられる。これより、改めて内省⇒外化が行われていることがわかる。

⑤今日の授業+αの学習がされているノート

子どもたちのノートは、あらゆる方向へ伸びていく可能性を秘めている。自主学习を続けていくと、図 16 に見られるような+αの学習をするノートが出てくる。例えば、図 16-1 では「なるほどコーナー」、図 16-2 での「〇〇のドリルコーナー」、図 16-3 の「本当の自主学习」、図 16-4 「算数く比べ方を考えよう (2) おうよう問題」などはそれに匹敵する。これは自ら学ぶ力が育成されている、まさにその典型と言っていだろう。

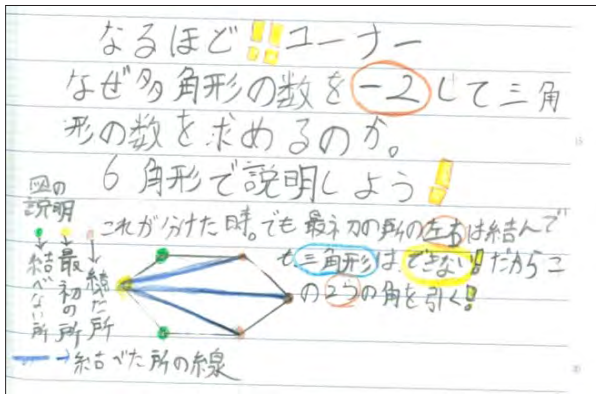


図 16-1 今日の授業+αの学習；なるほどコーナー (N. Y.; 男児)

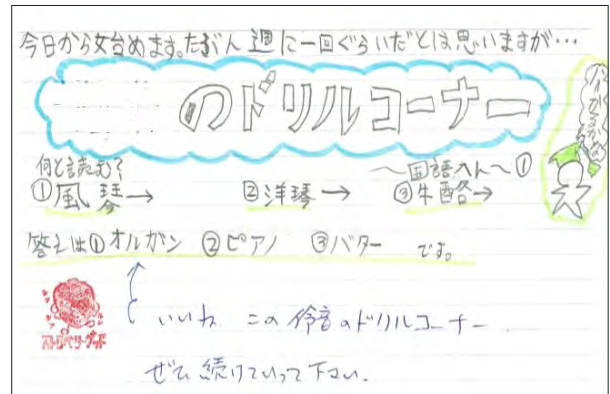


図 16-2 今日の授業+αの学習；Rのドリルコーナー (S. R.; 男児)

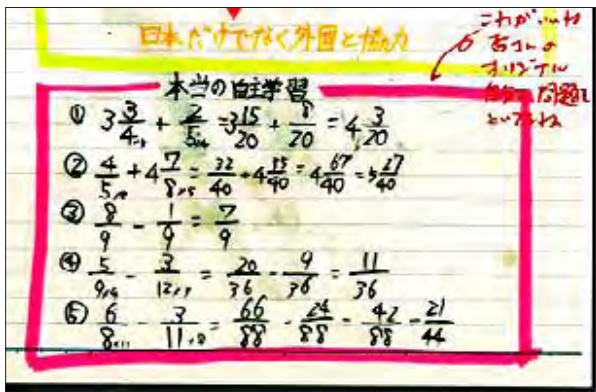


図 16-3 今日の授業+αの学習；本当の自主学习 (K. A.; 女児)

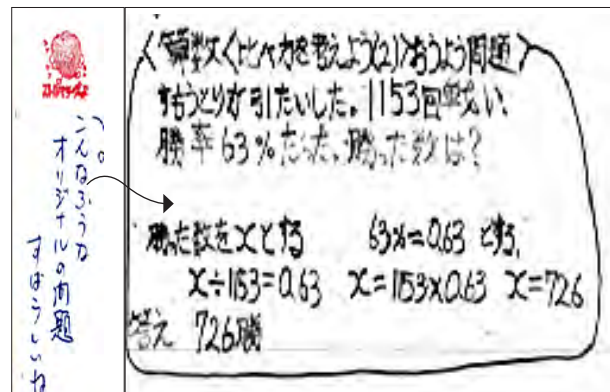


図 16-4 今日の授業+αの学習；おうよう問題 (W. K.; 男児)

(3) 内化・内省・外化がスパイラル的に行われている例

図17の児童は、算数「比べ方を考えよう」の授業で、バスケットボールの試合で10本中8本シュートが入った3試合目と、12本中9本入った4試合目では、どちらがシュートがよく成功したといえるかという課題に対し、授業中の自力解決（内化→内省→外化）の時間では差に注目するという間違った考え方をしていた。しかし、家で軌跡ノートに取り組む上でもう一度同じ課題に向き合い、さらなる内省によってその間違いに気づき、割合の考え方によって改めて外化したことがわかる例である。

1/12 比べ方を考えよう(2)

バスケットボール シュートの記録

	○:入った	●:入らない	入った数	総数
1試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	4	8
2試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	4	10
3試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	8	10
4試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	9	12

4試合のうち シュートが一番よく成功したといえるのは、何試合目か?

3試合目と4試合目を比べる  
～自分の考え～  
シュートした回数から入った回数を  
なく  
(3試合目)  $10 - 8 = 2$   
(4試合目)  $12 - 9 = 3$   
差が小さい。3試合目が一番よく成功したといえる。

今日の時間わり  
1枚時…算数 2枚時…国語 3枚時…学活  
4枚時…書写 5枚時…学活 6枚時…図書

1枚時 算数

	○:入った	●:入らない	入った数	総数
1試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	4	8
2試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	4	10
3試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	8	10
4試合目	●●●●●●●●	●●●●●●●●	9	12

この表をみてどの試合が一番入った割合が高いかを考えた。  
1試合目と2試合目を比べると入った数が同じだから、シュート数が少ない1試合目が割合が高い。  
2試合目と3試合目を比べると、シュート数が同じだから、入った数が多い3試合目が割合が高い。  
3試合目と4試合目を比べると…  
自分の考え  
シュート数をそろえて、60にして入った数を、3試合目は48、4試合目は45にする。48と45だと48の方が大きいから、3試合目の方が割合が高い。

図17 内化・内省・外化がスパイラル的に行われている例 (K. A.; 女児)

4. 自己の変容に対する自己評価

(1) OPP シートの記述から得られた知見

自ら学ぶ力は、自己の変容を適切に見取ることがきわめて重要であると考えられる。ノートが1冊終了するごとに書かせた OPP シートにより児童は、初めて自己の変容を認識できる。児童の記述から「ちゃんと話を聞いて忘れないようにしよう」と努力するようになった」「やった問題をもう一度やったり、たしかめたりするようになった」「家でのきまりになった(図18)」といった充実感・達成感が得られたり、次への意欲が湧いていることがうかがえた。これは内省の中でも、見通しをもったり目標や活動を吟味、検討したりという「予見的内省」、活動を振り返って意味や価値を見出すという「遡及的内省」の力が育成されていることをあらわしている。

また、OPP シートの効果的なところは、すべての子どもに通用するという点である。筆者の一人芦澤はこれまでに自主学习ノートに取り組む上で、生徒の見本例となるノートを掲示したり、学級通信において紹介したりと全体のノートの質を高めようとしてきた。

しかし、主に成績上位層の生徒が学習した掲示されるノートは、一部のごく限られた層の生徒にしか効果的な見本例とはならず、成績下位層の生徒にとっては見本となるよりもむしろその乖離を認識させられ、意欲の低下につながっていた。また、見本例として掲示されるようなノートを提出する固定化された生徒に対し、その質をさらに上げるような適切なアドバイスを与えることが出来ずにいた。

児童生徒にとって、学習評価は、自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促

される契機となるべきものである<sup>6)</sup>。OPPシートを使うことによって、成績に関わらずすべての児童が過去の自分のノートと現在の自分のノートを比較するという自己評価をすることによって、自己の変容を見取ることを可能にしていったのである。

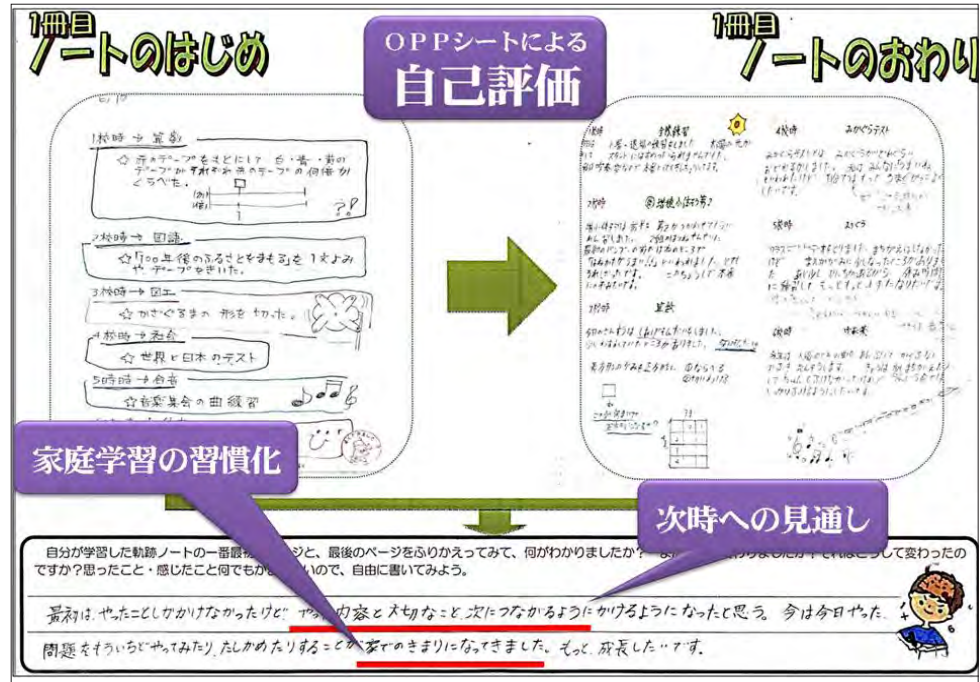


図 18 使用したOPPシートと記入例表面 (S. M.; 女児)

(2) 振り返りシートの記述から得られた知見

実習の終わりに際し、全児童に軌跡ノートへの取り組みに関する「振り返りシート」(図 19)に記入をさせた。児童の記録は以下(A)から(E)5つの表現にカテゴリー化された(表 1 参照)。

表 1 振り返りシートの記述内容の種類

- (A) 教師からのコメントや親からの称賛に関する表現
- (B) 授業の受け方への望ましい変容に関する表現
- (C) 自分の成長・望ましい変容・進歩に関する表現
- (D) 充実感・達成感・テストの得点の向上に関する表現
- (E) 勉強に対する効果的な刺激や楽しみが得られることに関する表現

図 20 のように児童は、自分の変容を自分で認識していることがわかる。また、図 20-1 についての記述からは、今日のこの授業だったら何を書こうか(次の外化への準備⇒内省)ということを考えながら授業を聞くようになっていくことがわかる。このことより自ら学ぶ力が育成されていると見てよいだろう。

また、図 20-3 ではこの軌跡ノートがドッ

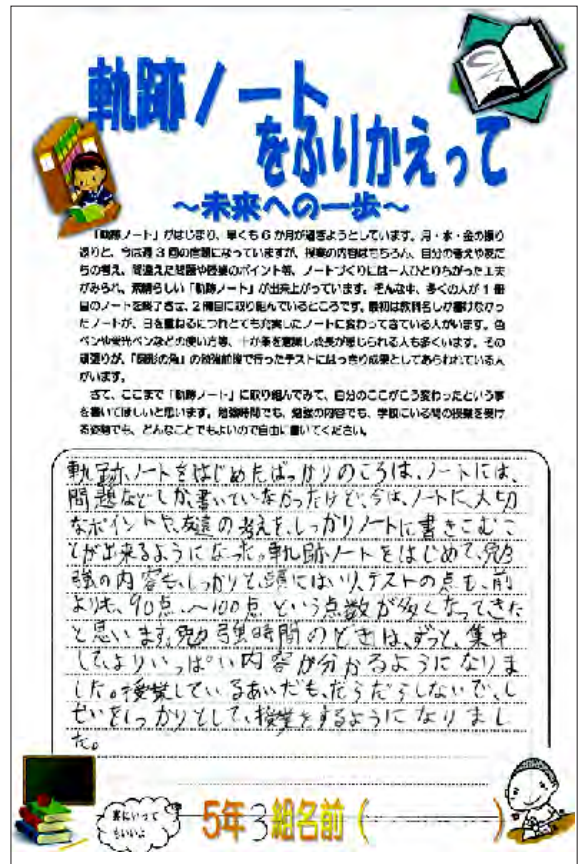


図 19 振り返りシート記入例 (N. H.; 女児)

ジボールや自由研究といった、学校生活の別の場面の頑張りにも影響していることがわかる。

次の日の授業が楽に感じられることや図 20-2 の「1週間前のことを振り返られるくらい」といった、まさに学習指導要領の望まんとしている「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動」がなされていることが記述からもうかがえる。そして、これら全体を通し、学習指導要領改訂のポイントである「学習意欲の向上や学習習慣の確立」をも可能にしていることは明らかであろう。

軌跡ノートを始めてから、今まで、ただ聞いているだけ  
ただ授業が、ノートに書かなくていいという仕組み  
聞いてかいて考える、毎日当てにがんばるようになります

図 20-1 授業の受け方への望ましい変容に関する表現 (K. A.; 女兒)

1週間前のことをしっかりふりかえれるくらい  
1つ下までできた

図 20-2 自分の成長・望ましい変容・進歩に関する表現 (E. R.; 女兒)

## 5. 軌跡ノートに対する保護者の評価

### (1) OPP シートの記述から得られた知見

保護者は、学校における学習評価の在り方や児童生徒の学習状況について、より一層把握したいという要望をもっていると考えられる<sup>7)</sup>。保護者の OPP シートに書かれた「あたりまえになり…」 「日々の成長を感じた」「本人も楽しんで取り組んでいるようで…」という記述からは、児童の変容を保護者も見とっていることがわかる (図 21 参照)。また、「自分の子供がこんなノートを書いていることも知らず…意外にもしっかりと書いてありびっくりした」という記述からは、数か月にわたり児童が取り組んでいることであっても、具体的な事例を示さない限り、理解してもらいにくい実態が浮かび上がってくる。このことから、OPP シートの有効性が保護者にも実感されている。

が楽しくなりました。2つ目は、元々張れる  
バックが持てたところまで。みんなの軌跡ノート  
を見ては「いな～次はお前のノートか」と思  
って元々張れた軌跡ノートが元々張れたから  
ちかっ事ドッジボールの自由研究で良い  
結果かたせたと思つた半年は、最初から  
最後まで見くらき2ページに軌跡

図 20-3 充実感・達成感・テストの得点の向上に関する表現 (R. M.; 男児)

### (2) 振り返りシート (図 22) の記述から得られた知見

図 23 の記述から、軌跡ノートへの取り組みを通して「勉強させられている」という受け身の姿

★お家の人に、思ったこと・感じたこと・キミへの激励など何でもかまわないので、自由に書いてもらおう。

最初の頃は、なんで宿題以外にこんなノートやらなきゃいけないの? って、家でふざけていた息子がいたが、今は「あたりまえ」のものとなり、最近では、色ペンを上手に使い、2ページに突入する事も珍しくなくなってきたように思います。😊❤️❤️

6月、7月...と、今日までのノートを振り返り、改めて見てみると、大変進歩している事がわかり、日々の成長を感じました!!

...笑のトコロ...、私自身も、週に数回は、いえ宿題以外にこのノートは...、大変(???) と思っていました。😊😊

ですが! 本当に、本当に!! 今となっては、とてもありがたく、子供にとっても、私にとっても、かけがえのないノートになりました!! 感謝いたします。❤️❤️❤️

図 21-1 保護者の記録 (S. R.; 母親)

5年3組では6月より「軌跡ノート」と題し、自主学习ノートに取り組んでいます。月・水・金曜日のその日1日の授業をふりかえり、一番大切だったことをノートにまとめています。裏ページ左側はノートが一番最初のページの学習、右側は一番最後のページの学習です。ノートを一冊終了させたことや、中味の変容をご覧になっていただき、思ったこと・感じたこと・お子さんへの激励でもかまわないので、自由に書いてください。

自分の子供がこんなノートを書いていることも知らず(かも)

内容もいかにもしっかり書いてありびっくりしました。

最初のページでは、文章で説明してあったのが、だんだん書かわれて、図や表、絵、線を引いたり工夫して書いていくようになりました。勉強は予習も大切かと思ったり、復習も大切かと思ったり、何よりも大切はこれだと思つたので、これからこの調子で工夫しながら、わかりやすく書いてほしいと思います。

がんばれー!!

図 21-2 保護者の記録 (K. A.; 母親)

勢から「楽しく勉強している」姿へと変容している、また「考える力がついた」と保護者が見取っていることがわかる。

児童の学習に対して重要な責任を負っているのは教師であることは間違いないのだが、このように良い形で児童の変容を知らせるといふ保護者をも巻き込むことによって、児童の自ら学ぶ力が育成されていくのだと考えられる。

図 23-1 保護者の記録 (S. Y. ; 母親)

図 23-2 保護者の記録 (A. G. ; 父親)

図 22 振り返りシート (E. R. ; 母親)

## V. おわりに

本研究を通して「長期継続して取り組める働きかけ」「記録内容の明確化」「思考や認知過程の内化・内省・外化をうながす働きかけ」「自己の変容に対する自己評価」「軌跡ノートに対する保護者の評価」を重視することによって、軌跡ノートへの取り組みを通して、自ら学ぶ力の育成が可能になることが明らかになった。

自主学习ノートということについては、多くの中学校教師が取り組んできたことであるが、これまであまり意識化されなかった、「記録内容の明確化」「思考や認知過程の内化・内省・外化をうながす教師の働きかけ」「OPPシートを利用した自己評価」「保護者の評価」という4つの視点については、特にその効果が明らかになったと言えるだろう。

今回、教職大学院において、芦澤一人では考えることができなかつたサジェスションを得る中で、研究を進めることができた。そのため、現場にいたのではなかなか構造化することが出来なかつた自主学习ノートのひとつの形態と方法を示すことが出来たのではないだろうか。

ところで、それでも毎日三十数冊のノートを回収し、何らかのコメントを加えて返却するのにはどこかに無理が生じてこないかという懸念がある。確かに学校現場では、日々の雑務に加え様々な仕事飛び込んでくる。

しかし、筆者が心がけたのは「1時間の空きコマ」でチェックし終えることであり、「継続」することであった。日々の継続によって変容する子どもたちの姿をノートに見取ることが教師の楽しみとなり、これが最優先業務となってくるのである。そして、この自主学习ノートが、班ノートや個人ノートといった担任と子どもたちをつなぐ交換日記にも勝る教師と児童生徒そして家庭とをつ

なぐコミュニケーションツールになりえるとも考えられるのである。

最後に、本研究から得られた成果は担任の成瀬貢先生のご尽力によるところが大きいことを強調しておきたい。先生の児童に対する細やかな心配り、例えば図5に示した「担任メッセージ」などがなければ、本研究の所期の目標を達成できなかったであろう。成瀬先生に記して感謝したい。

#### (附記)

本研究は、下記の分担により行われた。先行研究の資料提供を仙洞田が、研究の企画は芦澤が、OPPシートの骨子は堀が作成した。実際に使用したOPPシートの作成と自主学習についての取り組みは芦澤が行った。芦澤が執筆した論文に仙洞田と堀が加筆修正した。

#### (註)

- 1) 文部科学省『学習指導要領』東山書房, p. 18, 2008
- 2) 堀 哲夫「これからの小中学校で育てたい理科の学力」『指導と評価』Vol. 57, pp. 19-22, 2011
- 3) 文部科学省『児童生徒の学習評価の在り方について(報告)』2010年3月24日
- 4) 堀 哲夫『一枚ポートフォリオ評価 中学校編』日本標準, 2006
- 5) 堀 哲夫「認知過程の外化と内化を生かしたメタ認知の育成に関する研究—その1」『山梨大学教育人間科学部紀要』Vol. 11, pp. 12-22, 2009  
Hori Tetsuo, The Concept and Effectiveness of Teaching Practices Using OPPA, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No.6, December, pp. 47-67, 2011.
- 6) 3) に同じ
- 7) 3) に同じ

#### (参考文献)

- 阿部 昇『頭がいい子の生活習慣』ソフトバンククリエイティブ, 2009  
草野啓顕『家庭学習・学習習慣・学習意欲の育成とノート指導』2006  
志水宏吉『学力を育てる』岩波新書, 2005  
『秋田県式家庭学習ノート』主婦の友社, 2009